

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3年	2	必修
担当教員			
後藤 小百合			
A (会計学科)	S (専門科目)	AC (会計)	310 (上級科目)

授業のねらい (概要)	<p>会計実務を主体的、合理的に行うとともに、主体的に課題解決に取り組む態度を育てることを目的として、会計実務の諸課題に関する具体的な事例を取り上げて考察する。経営現場が抱えている諸課題について認識したうえで、会計実務の実践現場に出向き、調査活動や情報収集を行うとともに、文献購読や資料分析による結果報告や意見交換を行うことにより、主体的・能動的な能力を養う。なお、会計実務研究 I では、会計実務に関するテーマを取り扱う。</p>
授業計画	<p>第1回 [遠隔] オリエンテーションおよび序章「価値志向が未来を変える」(1) オリエンテーション 会計実務研究 I の学習目的・授業計画・評価方法の確認 序章「価値志向が未来を変える」(1) 1-1 なぜいま企業価値創造なのか 1-2 進む会計制度改革 1-3 株式所有構造の変化 予習(時間)：シラバスを読んでおくこと。(120分) 復習(時間)：テキストP.1からP.10までを読んで復習しておくこと。(120分)</p> <p>第2回 [遠隔] 序章「価値志向が未来を変える」(2) 1-4 M&Aの増加 1-5 増える現金保有 1-6 求められる非財務情報の開示 1-7 「正しい経営とは何か」のパラダイムシフト 予習(時間)：テキストの序章「価値志向が未来を変える」を読んで、会計制度の近年の変化について調べておくこと。(120分) 復習(時間)：テキストP.10からP.21までを読んで復習しておくこと。(120分)</p> <p>第3回 [遠隔] 第2章「企業価値評価のフレームワーク」 2-1 企業価値とは何か 2-2 企業価値経営のフレームワーク 2-3 戦略的な企業価値評価に向けて 予習(時間)：企業会計制度の近年の変化について調べておくこと。(120分) 復習(時間)：テキストP.23からP.52までを読んで復習しておくこと。(120分)</p> <p>第4回 [遠隔] 第3章「戦略的ファンダメンタル分析」 3-1 「企業活動を映し出す鏡」としての会計 3-5 ファンダメンタル分析とは何か 3-6 企業のディスクロージャー制度 予習(時間)：企業のディスクロージャー制度について、テキストを読んで予習しておくこと。(120分) 復習(時間)：テキストP.55からP.88までを読んで、講義箇所を中心に復習しておくこと。(120分)</p> <p>第5回 [課題] 外部講師による講義 銀行融資審査における判断基準、審査方法について 予習(時間)：銀行融資の審査基準について調べ、質問事項を考えておくこと。(120分) 復習(時間)：融資時における事業評価の方法について調べておくこと。(120分)</p> <p>第6回 第4章「戦略的ファンダメンタル分析」(1) 4-1 クロス・セクション分析 4-2 時系列分析 予習(時間)：テキストP.89からP.96までを読んで、予習しておくこと。(120分) 復習(時間)：配布資料を中心に、テキストの該当箇所を復習しておくこと。(120分)</p> <p>第7回 第4章「戦略的ファンダメンタル分析」(2) 4-3 企業価値とファンダメンタル分析—ROE, ROA, ROS— 4-4 キャッシュ・フロー経営分析 4-5 グループ経営分析 予習(時間)：テキストP.96からP.122までを読んで、予習しておくこと。(120分) 復習(時間)：配布資料を中心に、テキストの該当箇所を復習しておくこと。(120分)</p> <p>第8回 外部講師による講義 会計実務の現場における財務諸表分析 予習(時間)：事前にMellyから配布される資料をもとに、質問事項を考えておくこと。(120分) 復習(時間)：講義内容を振り返り、復習しておくこと。(120分)</p> <p>第9回 第7章「ケーススタディ」(1) 業界分析や分析対象企業の選定 ステップ1 収益性分析 ステップ2 効率性分析 ステップ3 安全性分析 ステップ4 成長性分析 予習(時間)：興味ある業界について、調べておくこと。(120分) 復習(時間)：興味ある業界、分析対象企業について調査研究し、ワークシートを作成すること。(120分)</p> <p>第10回 第7章「ケーススタディ」(2)</p>

	<p>選定企業の財務分析 ステップ1 収益性分析 ステップ2 効率性分析 ステップ3 安全性分析 ステップ4 成長性分析 予習（時間）：分析企業の財務諸表を入手し、持参すること。（120分） 復習（時間）：財務分析を進め、ワークシートを作成をする。（120分）</p> <p>第11回 第7章「ケーススタディ」（3） キャッシュ・フロー分析 グループ経営を分析する 総合的に評価する—PER, PBR— 学修成果発表会の準備（発表順の決定） 予習（時間）：テキストP. 208からP. 215までを読んで、予習しておくこと。（120分） 復習（時間）：学修成果発表会用としてワークシートを作成作業を進める。（120分）</p> <p>第12回 〔課題〕第7章「ケーススタディ」（4） 学修成果発表会用PPT作成および発表原稿の作成 予習（時間）：発表準備を確認し、必要な資料を作成準備すること。（120分） 復習（時間）：発表準備の進捗状況により、必要な作業を継続して行うこと。（120分）</p> <p>第13回 〔課題〕第7章「ケーススタディ」（5） 学修成果発表会用PPT作成および発表原稿の作成 予習（時間）：発表資料作成の進捗状況を確認し、必要な資料を持参すること。（120分） 復習（時間）：発表資料作成の進捗状況により、必要な作業を継続して行うこと。（120分）</p> <p>第14回 学修成果発表会（1） 学修成果発表会の発表順の確認・発表・講評 予習（時間）：発表資料を準備し、40部印刷しておくこと。（120分） 復習（時間）：発表内容を振り返り、他の人の発表から得た知見を整理する。（120分）</p> <p>第15回 学修成果発表会（2） 学修成果発表会の発表順の確認・発表・講評 予習（時間）：発表資料を準備し、40部印刷しておくこと。（120分） 復習（時間）：発表内容を振り返り、他の人の発表から得た知見を整理する。（120分）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>下記のDP3項目を意識した科目である。 【商学部】DP「1. 職業人的倫理観を持ち、組織で協働できる能力」「3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力」を身に付ける。 【会計学科】DP「2. 財務分析を行い、経営改善に関する助言を行える能力」を身に付ける。</p> <p>【身に付くスキル】 課題解決力・協働力</p>
到達目標	<p>①主体的にファンダメンタル分析に必要な分析手法を理解し、実際に活用することができる。 ②会計戦略分析の諸課題について具体的事例を取り上げて考察することができる。 ③主体的に学修を進め、合理的にファンダメンタルズ分析を行う。 ④主体的・能動的に発表資料を作成し、発表することができる。</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	<p>提出課題の注意点などについては、授業内に解説を行う。 学修成果発表の内容・方法などについては、授業内に指示を出し、全体に対して授業内でフィードバックを行う。</p>
履修上の注意	<p>やむを得ない場合を除き、できるだけ欠席しない。 やむを得ず欠席をし、提出期限内に提出ができない場合には、Mellyを通じて個別に連絡すること。</p> <p>なお、外部講師の日程や使用教室の都合により、授業計画は変更される場合があります。</p>
成績評価の方法・基準	<p>1. 提出課題 60% 2. 主体的な調査研究 20% 3. 学習成果発表会の発表内容 20%</p>
教科書	<p>書名：新・企業価値評価 著者名：伊藤邦雄 ISBN番号：978-4-532-13450-1 出版社：日本経済新聞出版社 価格：4000円 なお、当該教科書は「会計実務研究Ⅱ」でも継続使用します。</p>
参考書・教材	<p>【参考書】必要に応じて授業内で適宜指示します。</p>
備考	<p>講義科目：2020年度は、5、12、13回を課題研究として学修する。</p> <p>〔第5回〕外部講師による講義「銀行融資の審査基準について」は、Mellyを通じて配信される資料をもとに、レポートを作成し、期限内に提出すること。調査研究、課題提出、フィードバックを含めて330分の学修を想定している。 〔第12回〕学習成果発表会に向けて、ワークシートを作成し、発表用PPT資料を作成する。資料の作成、ワークシートの提出を含めて330分の学修を想定している。 〔第13回〕学習成果発表会に向けて作成したワークシートをもとに、発表用PPT資料の作成、発表練習を行う。資料作成およびMellyを通じて発表用PPT資料の提出を期限内に行う。全体として330分の学修を想定している。</p>
教員との連絡方法	<p>メール（アドレスは授業内で周知）</p>